

安全な通勤・通学へ 陽南通り交差点の早期改善を

問

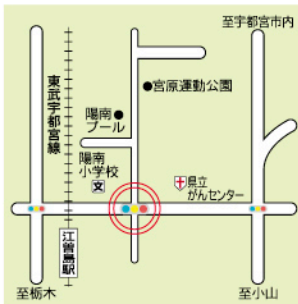
平成21年1月に陽南地区で行われたまちづくり懇談会において、陽南通りと緑ヶ丘通り、宮原球場通りの交差点の改善要望があった。

この交差点は、朝・夕、右折車両の渋滞と、通学の子どもたちや学生の自転車であふれ、毎日、大変危険な状態となっている。

当該交差点の南側の緑ヶ丘通りのロータリーまでの歩道整備は開始されたが、交差点部周辺の、今後の整備計画について伺う。

答

陽南通りについては、20年3月に川田入口交差点の立体交差化が完了し、20年度より、陽南中学校から江曾島本通りまでの区間の整備に着手した。当該交差点については、19年度に策定した「道路見える化計画」



▲陽南通り交差点

において、安全対策が必要な箇所に位置づけられているが、陽南通りの整備には長期間を要するので、暫定的な交差点の改良を行うため、交差点用地の一部を取得した。引き続き地域の理解・協力をいただきながら整備を進めていく。

オリオン通りや表参道スクエア 広場の使用料の引き下げで活性化

問

ハンバ広場やオリオンスクエアは、指定管理者に活用を任せているが、共に稼働率が低く、有効活用されていない。そこで、年間活用日数と稼働率、課題とその対策について伺う。

また、新聞にオリオン通りの空き店舗等の問題が掲載されていたが、市商工振興課によるとオリオンスクエアでのイベント等の集客効果で、通行量の減少に歯止めがかかったとの内容だった。もっと危機感を持つて対応すべきと考えるが、見解を併せて伺う。

平成20年度の実績は1月末迄で、ハンバ広場が33日の活用で稼働率11%、オリオンスクエアが101日の活用で稼働率33%で、20年度は両広場で約30万人の集客を見込んでいる。



▲オリオンスクエアでのイベント風景

いずれも中心商店街の活性化に寄与していると考えられるが、民間利用や平日利用の促進を図ることが課題であると受け止めている。

また、通行量は、19年度の調査で、増加に転じたが、未だ厳しい状況にある。21年度は拠点広場の使用料の引き下げや、空き店舗への出店補助金の補助率の拡充など、支援策を強化していく。

第3子以降の保育園等の保育料 無料化の早期実現に向け取り組み

問

平成21年度の新規事業に、第3子以降の保育料の免除があるが、これは、国の制度改正に伴うもので、幼稚園児は、兄・姉が9歳以下であること、保育園児は、同時に3人が通園していることが条件となっており、極めて対象の限られた制度改正である。

市長公約を忠実に実施するのであれば、国庫補助の対象となる免除額に、市単独費を約2億1千万円上乗せすれば、対象となるすべての第3子以降の子どもの保育料を免除することができると伺う。

この公約は、個人に直接影響するため、早期の実現が望ましいと考えるが、どのようなスケジュールで取り組んでいくのか、見解を伺う。

に渡り、持続的に発展していくためには、少子化対策は大変重要なことであり、中でも、経済的負担の軽減を図ることは、極めて効果的な施策と考えている。このため、これまで「こども医療費助成の拡充」や「妊婦一般健康診査の公的助成の拡大」のほか、本市独自の「保育料の軽減」などに取り組んできた。

第3子以降の保育園・幼稚園の保育料の無料化については、これからも、子どもを持ちたい市民が、安心して子どもを持てるよう、早期の実現に向け取り組んでいく。

